

## 序

地球的規模の気候変動がこれまでより濃厚に我が国の農業生産に陰を落とし、経済をはじめとする人間活動のグローバル化に伴い、人口大国の中国・インド両国の急速な経済成長、英国における BSE の発生、アジア各地における鳥インフルエンザの流行などの海外の動向が我が国の農業と国民生活に直接影響するようになった。農業技術の研究は、医学、分子生物学や情報通信技術の進歩をとりいれつつ、これらの変動が生む新たな課題に取り組み、毎年、成果を発信している。

2001 年 4 月から 5 年の計画期間を単位として運営されるようになった(独)農業・生物系特定産業技術研究機構は、農業生産技術全般の研究開発を担う立場から、各期間中に取り組んだ課題、研究によって得た知識と技術を盛り込み、最新の農業技術事典を刊行することにした。

専門家に限らぬ多様な読者を想定し、「各事項について 5 年前と違って、今ならここまで答えられる」ということを基本方針とした。解説は具体的で分かりやすくし、しかも水準を下げず、コンパクトな「役立つ事典」を狙ったが、それでも、キーワードなどを含め約 15000 語を収録し、カラー図版約 2600 枚を掲載する仕上げとなった。

本書を、農業技術の確かな理解、地域農業や食品産業の振興、農業・農村の担い手教育、農業の国民的な理解をサポートする事典として、農業関係者のみならず、農業を取り巻く幅広い層の方々に活用していただければと願っている。

趣旨に共感し、わが研究陣と一体となって刊行にこぎ着けた(社)農山漁村文化協会と研究成果発信の一環として無報酬で執筆に取り組んだ当機構の 1100 人を超える研究者にあらためて敬意と謝意を表する次第である。

平成 18 年 1 月

独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構

理事長 三輪 睿太郎